

公益財団法人 日本城郭協会 平成28年度事業報告

平成29年3月

1、「続日本100名城」の選定

公益財団法人 日本城郭協会は平成29年度に創立50周年を迎えるが、その記念事業として現行の「日本100名城」に続く100名城を新たに選定した。

日本100名城選定は創立40周年記念事業として行われ、その後のスタンプラリー事業と共に、国民の城郭に対する関心を飛躍的にたかめ、城郭文化の発展に大きく貢献をしたことは、城郭関係者のみならず社会的にも高く評価されている。

第2次城ブームとされる今日、新たな100名城選定を求める声は城郭ファンはもちろん各界から協会に多数寄せられていた。

選定の方法としては協会会員及び1000人を超す「100名城登城者」にアンケートを出し、その結果を参考にして6人の選定委員による選定委員会を平成29年3月31日に開催「続日本100名城」を選定した。

選定委員は小和田哲男理事長を委員長に、千田嘉博奈良大学教授、三浦正幸広島大学大学院教授、中井均滋賀県立大学教授、田中邦熙理事、加藤理文理事の6氏。

2、「お城EXPO2016」の開催

お城に関わる国内初の総合イベント「お城EXPO2016」を平成28年12月23日から3日間の日程でパシフィコ横浜で開催し、高い評価をえた。主催は公益財団法人日本城郭協会、株式会社ムラヤマ、株式会社東北新社、株式会社横浜国際平和会議場の4者で構成した実行委員会が執り行った。

協会が主導した主なイベントは「日本100名城パネル展」「お城の自由研究コンテスト優秀賞展」「城絵図展」「城郭浮世絵展」のほか多彩なシンポジウムやトークショーを行った。

特に熊本城復興に関するセミナーは評価が高かった・

会場には3日間で1万9千人の人々が訪れ大いに賑わった。

イベントの様子はテレビ、新聞のほか多くのネットで紹介され暮れ的话题をさらった。

3、「日本100名城スタンプラリー事業を強化」

当協会選定の日本100名城を探訪する「100名城スタンプラリー」はますます評価が高く、100名城登城達成者は1300人を超えた。

テレビや新聞などで100名城及びスタンプラリーが頻繁に紹介されることで、人々の城郭への関心が一層高まり、学研発行の「日本100名城に

行こう」は1年で前年の5倍近い13万8千部が発行された。

4、「親子名城見学会・城の自由研究コンテストの継続・強化」

第15回を迎えた「親子名城見学会」と「城の自由研究コンテスト」は児童・保護者さらに教育関係者から高い評価を得た。

具体的には「名城見学会」では上田城など大河ドラマで話題性の高い城など5城で開催した。また「城の自由研究コンテスト」は応募者のためのPRに務めた結果、応募作品は倍増、368点の作品が寄せられた。

平成29年1月11日、東京の私学会館で文部科学大臣賞など優秀賞の表彰式を行った。

5、「日本城郭検定の強化・充実」

日本城郭検定は28年度も2回開催した。6月には最上級の1級クラスを実施した。

受験者から要望が多かった「城郭検定公式参考書」を29年3月に学研プラスから発行した。

6、「城郭セミナー及び城郭イベントの開催」

各都道府県や各市の生涯学習部門から「城講座」の依頼が最近多く寄せられた。これらの要望には積極的に対応して、長岡市、牛久市、東京都練馬区などで城郭セミナーを開催した。

7、「学術委員会の活動強化及び学術委員の拡充」

学術委員会の活動を強化した。具体的には「日本城郭検定」の問題作成を主導するとともに、「城郭講座・城郭セミナー」開催など積極的に対応した。

8、「ヨーロッパ100名城の調査・研究会」

「ヨーロッパ100名城」の社会的認知度を高めるための調査研究の旅行企画などを企画したが実施できなかった。

9、「テレビ・新聞・出版物への監修・助言の体制強化」

テレビ・新聞などマスコミの城郭に関する問い合わせには、学術委員と協力して事務局全体で対応した。また一般の人々からの質問にもきめ細かく回答して感謝された。データの整備などは十分でなかった。

10、「会報・ホームページなど広報活動の充実および会員へのサービス強化」

会報の増ページは会員からの評価を得たが、会員の寄稿欄の一層の充実を図った。また多くの会員からの寄付に応える意味でも会員が参加できるイベントとして、平成28年11月に小田原城総構えを探訪する会員交流会を開催した。また会員増強につとめ約100人の入会者があった。

ホームページは28年4月から内容、運営方法共に一新し、魅力的なホームページの作成に努力した。

平成29年3月には公益等認定委員会事務局発行のWEB広報誌に
当協会の活動状況が掲載された。